

IV. 診療科活動状況

総合内科

1. 概要、特徴、特色

総合内科は2012年正式にスタートした新しい病棟です。複数の科にまたがる疾患を持つ患者様や、診断が困難な患者様、高齢の患者様などを集中的に担当することでより質の高い医療を提供すること、そのことにより内科のそれぞれの専門家が専門分野で力を発揮できるように援助すること、そして初期研修医の教育を行うこと、が当病棟に期待されている役割です。しかし一言で言えば、「あらゆる患者様に対応する」という気概を持って病棟診療

にあたっています。2013年スタッフは9名(後期研修医、在宅プログラムフェロー含む)で運営しました。2013年は内科病棟編成によりスタッフが増え、担当ベッド数も大きく増えました。糖尿病内科、腎臓内科、循環器内科の医師も所属する病棟であり、それぞれの疾患の患者の診療も行っています。血液内科医の協力も得ながら、血液疾患の診療やがん化学療法の実験も重ねています。神経疾患や膠原病の診療についても、各専門家の協力を仰ぎながら行っています。癌・非癌患者様の終末期に対応することも多く、倫理的問題への対応力をさらに深めることが課題だと思います。病棟内に内科ICUがあるため、ERからの入院への迅速な対応や急性期の管理も行っています。

病棟診療実績 (DPC分類)

| DPC6桁 | 傷病名 | 件数 | 年齢 | 在院日数 | 紹介あり | 救急搬入 |
|--------|------------------------|-----|------|------|------|------|
| 040080 | 肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎 | 100 | 72.5 | 13.6 | 36 | 31 |
| 060100 | 小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む) | 67 | 66.5 | 2.0 | 14 | |
| 110310 | 腎臓または尿路の感染症 | 65 | 71.6 | 13.6 | 25 | 19 |
| 040081 | 誤嚥性肺炎 | 61 | 83.1 | 21.7 | 32 | 28 |
| 010060 | 脳梗塞 | 50 | 74.3 | 14.8 | 23 | 18 |
| 050130 | 心不全 | 35 | 80.3 | 16.1 | 15 | 11 |
| 030400 | 前庭機能障害 | 21 | 69.0 | 5.6 | 2 | 16 |
| 040100 | 喘息 | 21 | 66.6 | 9.2 | 5 | 5 |
| 180010 | 敗血症 | 18 | 72.6 | 25.4 | 6 | 6 |
| 080011 | 急性膿皮症 | 17 | 64.2 | 12.8 | 8 | 4 |
| 100070 | 2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く) | 17 | 59.8 | 15.9 | 8 | 1 |
| 161070 | 薬物中毒(その他の中毒) | 16 | 46.1 | 3.1 | 2 | 13 |
| 050070 | 頻脈性不整脈 | 11 | 87.2 | 15.5 | 3 | 4 |
| 070560 | 全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患 | 11 | 64.3 | 19.4 | 3 | 4 |
| 010230 | てんかん | 9 | 55.7 | 48.3 | 6 | 7 |
| 030240 | 扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 | 9 | 44.1 | 4.9 | 2 | |
| 11012x | 上部尿路疾患 | 9 | 60.3 | 12.7 | 1 | 4 |
| 150010 | ウイルス性腸炎 | 9 | 51.8 | 4.7 | 2 | 4 |
| 010080 | 脳脊髄の感染を伴う炎症 | 8 | 43.0 | 19.4 | 3 | 2 |
| 110290 | 急性腎不全 | 8 | 77.9 | 16.1 | 5 | 3 |
| 040040 | 肺の悪性腫瘍 | 7 | 73.6 | 20.6 | 4 | 4 |
| 040120 | 慢性閉塞性肺疾患 | 7 | 76.6 | 14.1 | 3 | 7 |
| 060300 | 肝硬変(胆汁性肝硬変を含む) | 7 | 73.4 | 14.0 | 2 | 3 |
| 010040 | 非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外) | 6 | 76.3 | 12.0 | 1 | 2 |
| 100393 | その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害 | 6 | 76.0 | 7.8 | 4 | 3 |
| | その他の疾患 | 253 | | | 97 | 95 |
| | 合計 | 848 | 70.4 | 14.5 | 312 | 294 |

2. スタッフ

総合内科科長 忍 哲也

日本内科学会総合内科専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

循環器内科科長 金子 史

医長 島村裕子

日本内科学会認定内科医

医員 天野由紀

日本内科学会認定内科医

医員 肥田 徹

医員 山田歩美

日本内科学会認定内科医

日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

医員(後期研修医) 楠田待子

医員(後期研修医) 中島尚子

日本内科学会認定内科医

在宅プログラムフェロー 山下拓斗

3. 診療実績

3.1 外来診療

内科急患総合外来、各科専門外来、一般全科当直

3.2 病棟診療(表参照)

4. 教育・研修・研究活動

2013年 初期研修医:3名 後期研修医:2名
「総合医・家庭医プログラム」「糖尿病内科プログラム」「循環器内科プログラム」における主な研修病棟になっています。

カンファレンス

- 新入院カンファレンス(毎朝)
- 病棟カンファレンス(週1回)
- 総合医・家庭医カンファレンス(2~3ヶ月に1回)

病棟診療実績(主要診断群分類)

| MDC | 主要診断群分類 | 件数 |
|-----|-----------|-----|
| 4 | 呼吸器系疾患 | 219 |
| 6 | 消化器系疾患 | 111 |
| 11 | 腎・尿路系疾患 | 98 |
| 1 | 脳・神経系疾患 | 94 |
| 5 | 循環器系疾患 | 68 |
| 10 | 内分泌・代謝系疾患 | 50 |
| 16 | 損傷・中毒 | 43 |
| 3 | 耳鼻咽喉系疾患 | 41 |
| 7 | 筋・骨格系疾患 | 26 |
| 8 | 皮膚疾患 | 26 |
| 13 | 血液・免疫系疾患 | 25 |
| 18 | その他の疾患 | 22 |
| 15 | 小児疾患 | 16 |
| 17 | 精神疾患 | 7 |
| 12 | 周産期 | 1 |
| 14 | 新生児疾患 | 1 |
| 9 | 乳房疾患 | 0 |
| | 計 | 848 |

循環器内科

1. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査などを行い、心臓病の早期

| DPC病名 | 件数 | 在院日数 |
|---------------------------|-----|------|
| 狭心症、慢性虚血性心疾患 | 192 | 4 |
| 心不全 | 117 | 17.7 |
| 頻脈性不整脈 | 36 | 12.3 |
| 徐脈性不整脈 | 29 | 11.6 |
| 弁膜症（連弁膜症を含む） | 23 | 9.2 |
| 閉塞性動脈疾患 | 23 | 8.5 |
| 急性心筋梗塞（続発性合併症を含む）、再発性心筋梗塞 | 21 | 3.9 |
| 静脈・リンパ管疾患 | 7 | 17.4 |
| 高血圧性疾患 | 6 | 9.2 |
| 心内膜炎 | 4 | 38.8 |
| 解離性大動脈瘤 | 3 | 12 |
| 肺塞栓症 | 3 | 19.3 |
| 循環器疾患（その他） | 3 | 10.7 |
| 心筋炎 | 2 | 5 |
| 破裂性大動脈瘤 | 2 | 9 |
| その他の循環器の障害 | 2 | 6.5 |
| 非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 | 1 | 10 |

| 検査及び処置名 | 件数 |
|--------------|------|
| CAG | 231 |
| PCI | 26 |
| ペースメーカー（新規） | 22 |
| ペースメーカー（交換） | 9 |
| 下肢PTA | 8 |
| 体外ペースメーカーキング | 11 |
| 心嚢穿刺 | 1 |
| UCG | 2964 |
| TMT | 338 |
| ホルターECG | 817 |
| 経食道心エコー検査 | 4 |
| 血管内超音波 | 47 |
| 冠動脈CT | 108 |
| IVCフィルター挿入 | 1 |

発見に努めます。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は、心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

2. スタッフ

副院長 福庭 勲

日本内科学会認定内科医

日本循環器学会認定循環器専門医

科長 金子 史

3. 診療実績

3.1 外来診療

主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬

化症など 手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療

ペースメーカー外来（月1回）

3.2 入院治療

症例（DPC病名別） 左頁上表参照

3.3 検査（左頁下表参照）

3.4 治療

3.4.1

経皮的冠動脈ステント留置術：20例／形成術5例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：LAD 18例、LCX 3例、RCA 10例、CTO病変：2例、ISR病変：5例（RCA 3例、LAD 2例）

3.4.2

下肢血管拡張術：8例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：CIA 2例、EIA 5例、SFA 3例

3.4.3

ペースメーカー移植術：22例（MRI対応型ペースメーカー9例）

不整脈：完全房室ブロック5例（DDD 3例、VVI 2例）

高度房室ブロック3例（DDD 3例）

洞不全症候群8例（DDD 6例、VVI 2例）

心房細動8例（VVI 8例）

3.4.4

ペースメーカー交換術：9例

3.4.5

IVCフィルター留置：1例

呼吸器内科

1. 概要、特徴、特色

人口10万対医師数の少ない埼玉県において、呼吸器診療を専らとする医師は極めて少ない状況です。しかし、肺癌をはじめとした呼吸器疾患は減少するどころか多くは増加しているのが現状です。そこで当院の立地している東浦和駅周辺地域において、地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺癌などに対する診療を外来・病棟で展開しています。

当院呼吸器外科とも連携を取り、肺癌手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども依頼しています。

また、当院呼吸器内科の特色の1つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

年に1回、地域住民に向けて閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙することを志しています。

2. スタッフ

科長 原澤 慶次

病棟医長 佐藤新太郎 日本内科学会認定内科医

日本結核病学会結核・

抗酸菌症認定医

3. 診療実績

3.1 外来診療

常勤2名ならびに非常勤医師4名で予約外来を

行い、2013年は411名の新患患者を受け入れています。

昨年からはじめた慢性閉塞性肺疾患の患者さんを中心とした2ヵ月間の外来呼吸リハビリテーションを継続して実施し、リハビリ部門だけでなく栄養士や薬剤師なども含め多職種で患者の病状維持に努めています。今後もリハビリテーション部門と連携し、拡充していく予定です。

3.2 検査・手術

病棟での経皮的気管切開術を行っています。

2013年は16件の手術を行いました。

気管支鏡検査は原則入院とした上で施行してお

入院実績 DPC病名別患者数と在院日数

| 傷病名 | 件数 | 在院日数 |
|-------------------|-----|------|
| 肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎 | 241 | 15.8 |
| 肺の悪性腫瘍 | 182 | 19.9 |
| 誤嚥性肺炎 | 160 | 26.3 |
| 喘息 | 57 | 12.0 |
| 慢性閉塞性肺疾患 | 51 | 25.9 |
| 間質性肺炎 | 49 | 29.2 |
| 呼吸器のアスペルギルス症 | 18 | 37.3 |
| 気胸 | 17 | 11.5 |
| 肺・縦隔の感染、膿瘍形成 | 11 | 39.9 |
| 抗酸菌関連疾患（肺結核以外） | 9 | 24.7 |
| 呼吸不全（その他） | 8 | 12.0 |
| 呼吸器の結核 | 8 | 23.1 |
| インフルエンザ、ウイルス性肺炎 | 7 | 5.1 |
| 胸水、胸膜の疾患（その他） | 7 | 23.0 |
| 気管支拡張症 | 7 | 45.9 |
| 胸壁腫瘍、胸膜腫瘍 | 5 | 30.0 |
| その他の呼吸器の障害 | 4 | 13.3 |
| 気道出血（その他） | 3 | 7.0 |
| 気管支狭窄など気管通過障害 | 3 | 28.7 |
| 急性呼吸窮乏症候群 | 3 | 14.3 |
| 血胸、血気胸、乳び胸 | 1 | 15.0 |
| 肺循環疾患 | 1 | 17.0 |

| 化学療法 | |
|------|----|
| 患者数 | 20 |
| のべ回数 | 80 |
| うち入院 | 65 |

| 外来 | |
|---------|-----|
| 呼吸器外来新患 | 411 |

| 処置・検査 | |
|-------|----|
| 気管切開術 | 16 |
| 胸腔穿刺 | 86 |
| 胸腔鏡検査 | 2 |

り、2013年には148件の実績があります。また、局所麻酔下胸腔鏡検査にも取り組んでおり、2013年は2件施行しました。原因不明胸水の診断目的などに有用であり、今後も積極的に行いたいと考えています。

3.3 病棟診療

常勤医師2名で25～30床程度を担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺癌などを扱っています。

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

4.1.1 呼吸器内科志望の後期研修医に対する教育・研修プログラムを展開しています。現在、後期研修医1名がプログラムに沿って研修中です。研修の一環として、他院呼吸器内科に1年間の外部研修を行うことを必須としています。

4.1.2 院内での研修のために、週1回の割合で多職種合同の病棟カンファレンスを行い、複数の視点でより良い診療を行うことを目指しています。

4.1.3 週に1回、呼吸器外科との合同カンファレンスを行い、手術症例のみならず幅広い症例の検討を行っています。

4.1.4 院内学習会「人工呼吸器について」の講師を務めました。

4.2 研究

2013年学会発表実績

第164回日本結核病学会関東支部学会、第206回日本呼吸器学会関東地方会

佐藤新太郎、草野賢次、原澤慶次、浅沼晃三、宮岡啓介

「Clarithromycinが有効であったM.gordonaeによる肺感染症の1例」

4.3 その他

年に1回、気管支喘息あるいは慢性閉塞性肺疾患について市民向けの公開講座を開催しています。2014年も慢性閉塞性肺疾患についての公開講座を行う予定です。医師から疾患についての説明を行

うだけではなく、薬剤師からの使用薬剤の注意点やPT/OTからの簡単な運動療法、栄養士からの食事療法、看護師からの禁煙指導など、コメディカルスタッフからの説明も多く取り入れています。

消化器内科

1. 概要、特徴、特色

当院消化器内科は、日本消化器病学会関連施設・日本消化器内視鏡学会指導施設として、地域に密着した急性期病院の消化器内科の役割を果たすべく、診療にあたっています。消化器専門外来はもとより、当院の1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間3338台に及び、消化管出血や黄疸を主訴とする患者が数多く来院するため、救急医療において消化器内科医師の診療をお受けになる方はたいへん多くいらっしゃいます。地元の開業医の先生方とも連携し定期的に、地域医療懇談会を開催し、消化器専門科として紹介患者の受付や、開業医の先生方への紹介も積極的に行っています。

消化器内科では上部消化管内視鏡検査（5789件2013年実績）下部消化管内視鏡検査（2394件2013年実績）、ERCP、治療内視鏡を行っています。大腸ポリープや早期癌でも、適応があると診断されれば内視鏡的粘膜切除術（389件2013年実績）など、侵襲の少ない治療を積極的に行っています。最近では内視鏡的乳頭括約筋切開術（46件2013年実績）、超音波内視鏡検査にも積極的に取り組んでいます。消化器専門外来においては消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝疾患、消化器癌などの慢性期管理を行っています。

特に最近ではウイルス性肝炎のインターフェロン治療を積極的に行っています。消化器癌診療では診断はもちろんのこと、胃癌及び食道癌の内視鏡的粘膜下層剥離術（31件2013年実績）などの内視鏡治療、手術不能例への化学療法、緩和医療にも力を入れています。重症急性膵炎や潰瘍性大腸炎で血液浄化療法が必要になる場面では、透析担当部門ともスムーズに連携して治療にあたっています。埼玉協同病院の医局は全科の医師から構成されているため、手術の必要な症例の方には、外

科医との相談も行きやすく緊密な連携をとって治療にあたっています。あらゆる消化器疾患患者の外来・病棟主治医として活躍できる消化器内科医を育成することを目指して、医師の育成も行っています。

日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化器学会関連施設

2. スタッフ

科長・内科副部長 福本 顕史
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医
院長 増田 剛
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

日本消化器病学会消化器病専門医
日本プライマリ・ケア連合学会
プライマリ・ケア認定医
院長補佐 高石 光雄
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会消化器病専門医
副院長・内科部長 小野未来代
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医
内科副部長 忍 哲也
日本内科学会総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会
認定指導医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
消化器科医長 守谷 能和
日本内科学会認定内科医
日本消化器内視鏡学会消化器

消化器内科実績 (09年1月～13年12月)

| | 検査・処置 | 09年 | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 |
|-------|----------------------------------|------|------|------|------|------|
| アンギオ | 腹部血管造影 | 16 | 18 | 18 | 15 | 26 |
| | TAE (肝動脈塞栓療法) | 50 | 44 | 62 | 59 | 49 |
| 上部内視鏡 | 上部内視鏡検査 | 5915 | 5994 | 5850 | 5561 | 5789 |
| | ※止血 (内視鏡検査に含まれる重複・入院のみの件数) | 32 | 43 | 56 | 59 | 65 |
| | EMR・ESD (胃) | 47 | 47 | 24 | 42 | 33 |
| 下部内視鏡 | 下部内視鏡検査 | 1982 | 1992 | 2247 | 2280 | 2394 |
| | ※止血 (内視鏡検査に含まれる重複・入院のみの件数) | 27 | 10 | 6 | 8 | 7 |
| | EMR・ESD (大腸) | 409 | 424 | 405 | 427 | 431 |
| 食道内視鏡 | EIS (食道静脈瘤硬化療法) | | | 4 | 8 | 3 |
| | EVL (食道静脈瘤結紮術) | 9 | 6 | 13 | 12 | 13 |
| 胆道系 | ERCP (内視鏡的逆行性胆道膵管造影法) | 21 | 35 | 42 | 34 | 39 |
| | EST (内視鏡下での括約筋切開及び乳頭切開) | 33 | 36 | 36 | 47 | 46 |
| | ENBD、EPBD、採石等 (胆道へのその他の内視鏡的処置) | 55 | 56 | 109 | 100 | 85 |
| | PTCD、PTGBD、PTGBA (胆道へのその他の経皮的処置) | 25 | 24 | 34 | 18 | 32 |
| | PEG造設 (内視鏡的胃瘻造設術) | 77 | 80 | 69 | 70 | 55 |
| | PEG交換 (胃瘻チューブ交換) | 135 | 168 | 161 | 142 | 148 |

内視鏡専門医
病棟医長 田中 宏昌
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医員 久保地美奈子
日本内科学会認定内科医
日本プライマリ・ケア連合学会
認定プライマリ・ケア認定医
非常勤 大石 克巳

3. 診療実績

(左頁表・下表参照)

4. 教育・研修・研究活動

当科では標準的な上部・下部消化管内視鏡検査、ERCP、治療内視鏡を行うことができ、あらゆる消化器疾患患者の外来・病棟主治医として活躍できる消化器内科医を育成することを目指しています。また内科医である以上、消化器以外の症候や疾患を持つ患者を診療する場面も少なからずあるので、総合的的力量を向上させる目的で50～100床規模の県内拠点病院での研修を義務づけています。

| 処置 | 09年 | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 |
|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 早期胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術 | 22 | 23 | 2 | 13 | 2 |
| 早期胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 | 25 | 24 | 11 | 21 | 31 |
| 早期食道がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術 | | | 9 | 8 | |
| 大腸ポリープ (良性・悪性) 内視鏡的切除術 | 409 | 424 | 405 | 427 | 389 |
| ラジオ波焼灼術 | 5 | 4 | 4 | 3 | 5 |
| 穿刺 | | | | | 11 |
| 検査 | | | | | 5 |
| 肝生検 | 2 | 1 | | 5 | 1 |
| その他の生検 | 3 | 1 | | 1 | 1 |
| 胆道鏡 | | 4 | | 1 | 1 |
| 超音波内視鏡検査 | | | | | 44 |

小児科

1. 概要、特徴、特色

当科は川口市の入院設備を備えた主要な小児科として大きな役割を担っています。他院からの紹介も多数受け、川口市小児夜間救急診療体制で一次救急と二次救急も担当しています。小児の common disease を中心に他科領域とも連携し、幅広い疾患に対応しています。日本小児科学会の定める専門医研修施設に指定されており、小児科医の育成にも取り組んでいます。当院産科は分娩数が多く、新生児疾患についても一定対応していますが、NICUを併設していないため、重症な新生児対応については、近隣のNICUへ依頼しています。地域周産期センターと連携して産科クリニックからの軽症新生児疾患の受け入れも行っています。

2. スタッフ

部長 和泉桂子 日本小児科学会認定小児科専門医
 科長 荒熊智宏 日本小児科学会認定小児科専門医、PALS provider、ICD (感染制御医師) 4月1日から
 医長 細谷通靖 日本小児科学会認定小児科専門医、PALS provider、NCPR provider

医員 藤田泰幸

医員 新井聖子 (後期研修医) 4月1日から
 非常勤 小堀勝充 (アレルギー外来)、平澤薫 (午前および午後外来)、斎藤陽子 (発達外来)、平井克明 (発達外来)、脇田傑 (循環器外来)、中村明夫 (腎外来) 敬称略 計6名の非常勤医師の協力を得て外来を行いました。

3. 診療実績

3.1 外来診療

午前の一般外来、午後の乳児健診・予防注射・専門外来を行っています。近医からの紹介患者、救急搬入、時間外の急患患者は随時受け入れています。毎週金曜日は川口市の小児救急の夜間当番医として1次救急、2次救急を担当しています。2013年4月から土曜日午前一般外来を再開しました。

専門外来として、アレルギー・神経発達・心理発達・腎・循環器を行っています。アレルギーに関しては気管支喘息・アトピー性皮膚炎などへの対応の他、食物アレルギーの負荷試験の入院、外来負荷などにも対応しています。

乳児健診は、多職種 (医師、看護師、保育士、管理栄養士) の協力を得て、育児支援にも力をいれた形で継続しています。予防接種は近年接種する種類・回数の増加に伴い、延べ人数は増加しています。また同時接種 (1回4本まで) にも対応しています。

「統計」

- ・小児科外来患者数 年間1万9317人 (小児科紹介患者数 年間348人) (疾病割合は右頁図参照)
- ・川口市小児夜間救急 (一次および二次救急) 毎週金曜日 年間1134人
- ・乳幼児健診 1ヵ月、3-4ヵ月、6-7ヵ月、9-10ヵ月、1歳、1歳半健診 合計 年間2383人 (延べ人数) 予防接種 年間4389人 (延べ人数)

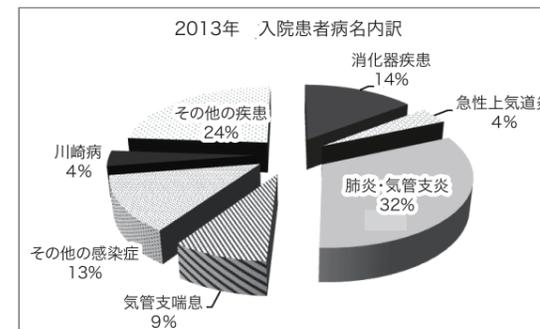
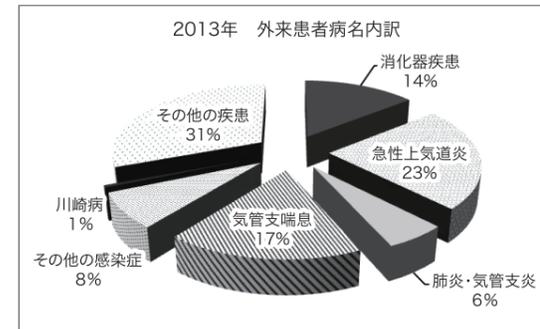
3.2 病棟診療

- ・小児科入院ベッド数 12床、小児科入院患者数 年間331人 (疾病割合は右頁図参照)
- ・産科分娩数 年間537人、早期新生児疾患入院数 年間117人

3.3 育児支援活動

- ・院内うぶごえ学級 (両親教室) 月1回担当。
- ・ベビーマッサージ 看護師・保育士のマッサージ指導、医師による育児相談。月1回実施。

(外来・入院患者病名内訳)



- ・院内じいじ・ばあば教室 (祖父母への育児教室) 年4回実施。
- ・子育て教室 3回で1クール。年2クール実施。

3.3 外部活動

園医として担当する保育園6園、校医として担当する小学校が木曾呂小学校、差間小学校の2校あり、学校健診・保育所健診を行っています。また市の3歳児健診も輪番で担当しています。法人内の大井協同診療所からの依頼で2013年度のふじみ野市の集団健診 (3・4ヵ月、1歳6ヵ月、3歳) と川口診療所の依頼により保育園 (1園) も担当しました。

こども保健教室を1回実施しました。

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

当院の初期研修プログラムに準じて、初期研修医4名が小児科研修を行いました。

王子生協病院・家庭医療学開発センターの家庭医療研修医2名が小児科研修を行いました。

カンファレンスは、入院患者の病棟カンファレ

ンス (週1回)、乳児健診カンファレンス (週2回)、アレルギーカンファレンス (週1回)、産婦人科と合同で周産期カンファレンス (月1回)、文献抄読会 (週1回) を定期的に行っています。

4.2 研究

学会研究会活動 (発表)

- ・2013年2月16日 日本小児科学会埼玉地方会 平澤薫 「軽症胃腸炎関連けいれんの経過中に尿閉を来した幼児例」
- ・2013年3月27日 川口市医師会小児科部会 症例検討会 細谷通靖 「RSウイルス感染によるけいれん重積型急性脳症の1例」
- ・2013年5月31日 第55回日本小児神経学会学術集会 荒熊智宏 「小児集中治療室における持続脳波モニタリングでとらえた発作時脳波の検討」
- ・2013年7月24日 川口市医師会小児科部会 症例検討会 新井聖子 「小膿疱で発症した2ヵ月の川崎病の1例」
- ・2013年9月14日 第31回日本小児心身医学会学術集会 藤田泰幸 「3歳時に発達の遅れを指摘されたがその後順調に発達し問題なく就学した2例」
- ・2013年11月22日 川口市医師会小児科部会 症例検討会 新井亮子 (初期研修医) 「メトクロプラミド (プリンペラン) による薬剤誘発性ジストニアを認めた1例」

学会研究会活動 (著書)

- ・荒熊智宏. Images in Child neurology 退行、けいれん、聴覚過敏を認める11ヵ月男児. 脳と発達 2013; 45; 3-4
- 荒熊智宏. 非外傷性頭蓋内出血. 小児科学レクチャー 2013; 3; 856-861

4.3 その他

川口医師会小児科部会症例検討会の当番幹事を行いました。

外科

2. スタッフ

院長補佐 井合 哲
日本外科学会外科専門医・指導医

技術部長 市川辰夫
日本外科学会外科専門医・指導医

外科技術部長 長 潔

外科部長 井上 豪
日本外科学会外科専門医

外科技術部長 植田 守
日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会認定医
日本胸部外科学会認定医

1. 概要、特徴、特色

昨年は消化器がん、乳がん、肺がんを中心に670件（うち全身麻酔572件、緊急手術98件）の手術がありました。現在は腹腔鏡手術に力を入れており、1995年より胆石を中心に開始。現在年間約200例の腹腔鏡下の胆石手術を行っています。さらに腹腔鏡手術症例も徐々に増加し、昨年7%だった結腸手術は24%、直腸切除は24%から48%の実施となっております。

外来患者数

| 2013年計 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 14,865 | 1,130 | 1,169 | 1,211 | 1,229 | 1,206 | 1,169 | 1,310 | 1,243 | 1,203 | 1,388 | 1,322 | 1,285 |

入院医療の実績

| 傷病名 | 件数 | 入院目的内訳 | | | 入院経路 | | | | 平均在院日数 | | |
|--------------------------|-----|--------|----------|--------|--------|------|------|------|--------|------|------|
| | | 診断検査のみ | 繰り返し計画入院 | その他の加療 | 手術(再掲) | 紹介あり | 緊急入院 | 救急搬送 | 手術あり | 手術なし | 全 |
| 肺の悪性腫瘍 | 13 | | 3 | 10 | 9 | 3 | | 16.1 | 7.3 | 13.4 | |
| 胸壁腫瘍、胸膜腫瘍 | 9 | | 6 | 3 | 2 | 8 | 1 | 17.0 | 1.4 | 4.9 | |
| 気胸 | 13 | | | 13 | 11 | 9 | 11 | 9.9 | 4.5 | 9.1 | |
| 胃の悪性腫瘍 | 104 | | 33 | 71 | 57 | 45 | 20 | 1 | 31.9 | 11.8 | 22.8 |
| 結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍 | 155 | 6 | 80 | 69 | 66 | 49 | 22 | 3 | 25.1 | 3.3 | 12.6 |
| 直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 | 104 | | 61 | 43 | 33 | 33 | 18 | 3 | 29.8 | 5.7 | 13.4 |
| 肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む） | 19 | 5 | 1 | 13 | 11 | 9 | 1 | | 28.0 | 6.0 | 18.7 |
| 胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍 | 24 | | 5 | 19 | 10 | 12 | 10 | 3 | 69.1 | 12.6 | 36.2 |
| 膵臓、膵臓の腫瘍 | 7 | 2 | 1 | 4 | 3 | 4 | 1 | | 66.0 | 14.0 | 36.3 |
| 小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む） | 17 | 1 | | 16 | 2 | 6 | 1 | | 8.0 | 3.3 | 3.9 |
| 穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患 | 12 | 1 | | 11 | 4 | 5 | 8 | | 15.3 | 7.9 | 10.3 |
| 食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患） | 12 | 1 | | 11 | | 5 | 10 | 1 | | 17.7 | 17.7 |
| 虫垂炎 | 68 | | | 68 | 45 | 20 | 58 | 9 | 7.1 | 8.1 | 7.4 |
| 鼠径ヘルニア | 123 | | | 123 | 121 | 38 | 8 | 1 | 7.3 | 3.5 | 7.3 |
| 閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア | 18 | | | 18 | 18 | 5 | 6 | 3 | 12.4 | | 12.4 |
| ヘルニアの記載のない腸閉塞 | 52 | | | 52 | 14 | 17 | 52 | 18 | 24.6 | 11.4 | 15.0 |
| 胆嚢疾患（胆嚢結石など） | 61 | | | 61 | 59 | 18 | 2 | 1 | 8.3 | 6.0 | 8.2 |
| 胆嚢水腫、胆嚢炎等 | 60 | | | 60 | 46 | 17 | 19 | 4 | 11.3 | 9.6 | 10.9 |
| 胆管（肝内外）結石、胆管炎 | 17 | | | 17 | 13 | 4 | 11 | 2 | 32.2 | 22.0 | 29.8 |
| 腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く） | 11 | | | 11 | 9 | 3 | 9 | 5 | 31.9 | 13.0 | 28.5 |
| その他の傷病 | 124 | 6 | 0 | 118 | 62 | 44 | 275 | 18 | | | |
| 総計 | 102 | 22 | 190 | 811 | 595 | 354 | 339 | 72 | 18.8 | 9 | 14.3 |

日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 医長 浅沼晃三
日本外科学会外科専門医
日本内科学会認定内科医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本呼吸器学会呼吸器専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 医員 重吉 到
 医員 岸本 裕

3. 診療実績

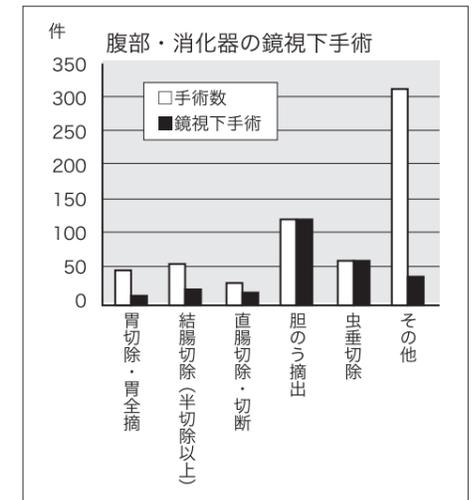
- 3.1 外来診療（前頁表参照）
- 3.2 手術（下表参照）

医員 佐野貴之
日本外科学会外科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

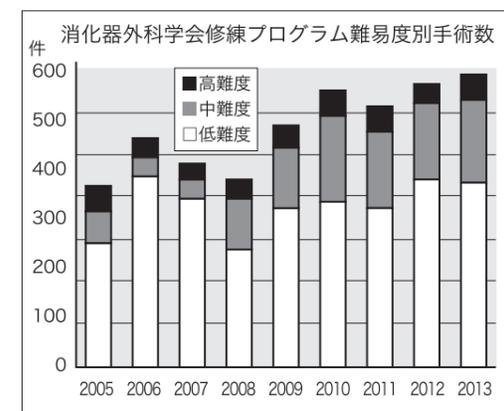
医員（外部研修）
 栗原唯生
日本外科学会外科専門医

| 手術部位(併施重複) | 入院 | 外来 |
|------------|-----|----|
| 消化管・腹部 | 595 | |
| 呼吸器 | 34 | |
| 末梢血管 | 5 | |
| 頭頸部・体表・内分泌 | 34 | 2 |
| 小児外科 | 7 | |
| その他 | 6 | |
| 計 | 681 | 2 |

| | 件数 |
|----|-----|
| 全麻 | 572 |
| 緊急 | 98 |



| 腹腔鏡手術実施件数・割合 | 手術数 | 鏡視下手術 | 鏡視下割合 | 補足 |
|--------------|-----|-------|-------|-------|
| 胃切除・胃全摘 | 46 | 1 | 2% | 開腹移行2 |
| 結腸切除（半切除以上） | 51 | 12 | 24% | |
| 直腸切除・切断 | 23 | 11 | 48% | |
| 胆のう摘出 | 118 | 117 | 99% | |
| 虫垂切除 | 55 | 54 | 98% | |
| その他 | 302 | 32 | 11% | |
| 計 | 595 | 227 | 38% | |



乳腺外科

1. 概要、特徴、特色

日本において女性の癌罹患率で乳癌が1位となっており、14人に1人が乳癌に罹患しています(2008年データ)。また、社会においても家庭においても重要な役割を果たしている40歳から50歳の年代にもっとも罹患者が増えています。乳癌の治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。自宅近くでも安心して治療が受けられるように、当院で乳腺外来を立ち上げ、診療を行っています。

1.1 紹介

乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。特に乳癌患者様の診断から治療までかわることにより、精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、コメディカルとの連携を図っています。

*当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

2. スタッフ

乳腺外科医長 金子しおり

日本外科学会外科専門医
日本乳癌学会認定医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

非常勤 蒔田益次郎 日本外科学会指導医
日本乳癌学会専門医

3. 診療実績

3.1 検査・手術

- マンモグラフィー
- 乳房超音波

- MRI
- 穿刺吸引細胞診
- 超音波ガイド下乳房針生検
- 画像ガイド下吸引式乳房組織生検(ステレオガイド下、超音波下)

| | |
|----------------|--------|
| マンモグラフィー | 1,656件 |
| US | 2,585件 |
| 細胞診 | 281件 |
| 針生検およびマンモトーム生検 | 245件 |
| 乳腺生検 | 21件 |
| 手術 | 44件 |

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

| | | |
|-------------|--------|--|
| 病棟カンファレンス | 毎週月曜日 | 入院患者のカンファレンス |
| 術前検討会 | 毎週木曜日 | 術式の検討、全身状態のチェックなど |
| 乳癌治療カンファレンス | 毎週水曜日 | 腫瘍内科医を中心に薬物療法の治療方針(術前、術後、再発)を検討。患者対応や緩和ケアなども検討していく |
| 画像カンファレンス | 毎月1回 | 放射線技師・臨床検査技師とともに画像検討 |
| 乳腺科診療チーム会議 | 毎月1回 | 乳腺診療の運営について他職種と検討していく |
| 乳腺疾患コンサルト | 毎月1回程度 | がん研有明病院から乳腺専門医に来ていただき、日々の診療における疑問などを直接コンサルトしている |

4.2 研究

- ①抗癌剤によるサイトリスクマネジメント
- ②タキサン起因性末梢神経障害に対する弾性ストッキングによる予防効果の検証

整形外科

1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の整形外科は地域の基幹病院の一つとしてレベルの高い医療を提供できるよう、今後も益々診療体制を充実させてまいります。

診療体制は3人の常勤医師と、13人の非常勤医師が診察にあたります。慶應義塾大学からは腫瘍、脊椎、関節外科、上肢の専門医が勤務にあたり、それぞれの専門分野を中心に外来診療・手術を行っております。

2008年10月1日より、人工関節、股関節外科を当院整形外科のメインテーマとしてかかげ、最新のコンピュータ支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。人工関節手術実績は2012年：251件、2013年：339件と増加が著しく、埼玉県内でも有数な症例数となっております。

骨粗鬆症、外傷一般等にも適時対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

日本整形外科学会研修認定施設

日本リウマチ学会研修指定施設

2. スタッフ

部長 仁平高太郎

日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本リウマチ学会リウマチ専門医

医員 北村 類
医員 遠藤 大輔

非常勤 横尾 冠三 日本体育協会スポーツ医

非常勤 後藤 晋 日本整形外科学会整形外科専門医

日本整形外科学会認定

非常勤 尹 栄淑 スポーツ医
日本整形外科学会整形外科専門医

非常勤 朝長 明敏 日本整形外科学会整形外科専門医

日本整形外科学会認定リウマチ医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

日本リウマチ学会リウマチ専門医

非常勤 森岡 秀夫 日本整形外科学会整形外科専門医

日本整形外科学会認定リウマチ医

日本リウマチ学会リウマチ専門医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

非常勤 小粥 博樹 日本整形外科学会整形外科専門医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

非常勤 岡崎 真人 日本整形外科学会整形外科専門医

非常勤 奥山 訓子 日本整形外科学会整形外科専門医

非常勤 河野美貴子 日本整形外科学会整形外科専門医

非常勤 日下部 浩 日本整形外科学会整形外科専門医

非常勤 川端 走野

非常勤 大橋麻依子

非常勤 伊藤 彩

3. 診療実績

| DPC6桁 | 傷病名 | 件数 | 入院目的 | | | | 入院経路 | | 在院 日数 | 年齢 |
|--------|----------------------------|-----|----------|-----------------|---------------|------------------|----------|----------|----------|------|
| | | | 診断 検査 | 短期の 計画入 院 | その 他加 療 | 手術 あり (再掲) | 紹介 あり | 救急 搬入 | | |
| 050170 | 閉塞性動脈疾患 | 8 | | | 8 | 8 | 4 | 1 | 63.5 | 79.8 |
| 070040 | 骨の悪性腫瘍(脊椎を除く) | 7 | | | 7 | 3 | 2 | | 38.0 | 71.9 |
| 07010x | 化膿性関節炎(下肢) | 6 | | | 6 | 5 | 4 | 1 | 73.2 | 59.7 |
| 070160 | 上肢末梢神経麻痺 | 5 | | | 5 | 5 | 4 | | 5.6 | 67.4 |
| 070230 | 膝関節症(変形性を含む) | 88 | | | 88 | 87 | 36 | | 40.4 | 73.4 |
| 070341 | 椎管狭窄(脊椎症を含む) 頸部 | 9 | 4 | | 5 | 5 | 2 | | 14.4 | 60.1 |
| 070343 | 椎管狭窄(脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎 | 27 | 6 | | 21 | 17 | 12 | | 20.9 | 70.7 |
| 07034x | 椎管狭窄(脊椎症を含む) | 7 | | | 7 | 6 | 3 | 1 | 58.3 | 74.9 |
| 070350 | 椎間板変性、ヘルニア | 29 | 3 | | 26 | 20 | 7 | 3 | 14.9 | 60.6 |
| 07040x | 股関節骨頭壊死、股関節症(変 形性を含む) | 179 | 1 | | 178 | 178 | 58 | 1 | 32.3 | 64.8 |
| 070470 | 関節リウマチ | 8 | | | 8 | 8 | 7 | | 27.3 | 63.3 |
| 100100 | 糖尿病足病変 | 5 | | | 5 | 4 | 5 | | 95.8 | 63.0 |
| 160610 | 四肢筋腱損傷 | 5 | | | 5 | 3 | 4 | 1 | 14.0 | 58.4 |
| 160620 | 肘、膝の外傷(スポーツ障害等 を含む) | 12 | | | 12 | 10 | 6 | 1 | 9.8 | 40.4 |
| 160690 | 胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・ 腰髄損傷を含む) | 10 | | | 10 | 4 | 8 | 3 | 33.2 | 75.9 |
| 160700 | 鎖骨骨折、肩甲骨骨折 | 32 | | 9 | 23 | 32 | 18 | | 3.2 | 44.3 |
| 160720 | 肩関節周辺の骨折脱臼 | 24 | | 3 | 21 | 23 | 20 | | 6.0 | 63.3 |
| 160740 | 肘関節周辺の骨折・脱臼 | 13 | | 3 | 10 | 13 | 11 | | 3.1 | 32.9 |
| 160760 | 前腕の骨折 | 30 | | 2 | 28 | 30 | 16 | 2 | 3.5 | 50.5 |
| 160780 | 手関節周辺骨折脱臼 | 9 | | | 9 | 9 | 6 | 1 | 3.6 | 34.8 |
| 160800 | 股関節大腿近位骨折 | 82 | | | 82 | 77 | 41 | 35 | 50.1 | 80.6 |
| 160820 | 膝関節周辺骨折・脱臼 | 13 | | | 13 | 13 | 7 | 2 | 52.5 | 61.5 |
| 160835 | 下腿足関節周辺骨折 | 25 | | 10 | 15 | 25 | 15 | 6 | 18.0 | 48.3 |
| 160850 | 足関節・足部の骨折、脱臼 | 28 | | 4 | 24 | 28 | 20 | 2 | 14.9 | 49.5 |
| 160980 | 骨盤損傷 | 6 | | | 6 | | 3 | 3 | 29.2 | 80.5 |
| 180040 | 手術・処置等の合併症 | 13 | 1 | | 12 | 11 | 3 | 1 | 39.4 | 67.3 |
| | その他の傷病 | 51 | 3 | 4 | 44 | 34 | 21 | 10 | | |
| | 総計 | 731 | 18 | 35 | 678 | 658 | 343 | 74 | 28.9 | 63.9 |

4. 教育・研修・研究活動

モーニングカンファレンス(週3回)

病棟カンファレンス(週1回)

5. その他

後期研修医が2名当科で研修しています。おのおのが外傷を中心に年200例程度の手術を担当しています。股関節疾患と膝関節疾患に関して患者会がそれぞれ存在します。年に数回、患者会メンバーを中心に医師による疾患と理解を深めるための講演が行われています。

| | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 他施設からの紹介 | 548 | 659 | 695 | 671 |
| 手術件数(入院・外来) | 661 | 747 | 726 | 811 |
| 入院手術 | 563 | 651 | 630 | 713 |
| 外来手術 | 98 | 96 | 96 | 98 |
| 緊急手術(再掲) | 36 | 41 | 52 | 60 |
| 難易度の高い(旧分類D3・E難度)手術数 | 214 | 222 | 273 | 389 |
| 関節手術数 | 205 | 214 | 247 | 351 |
| 脊椎手術数 | 7 | 4 | 26 | 33 |
| 75歳以上の手術率 | 32.3% | 18.9% | 30.3% | 31.9% |
| 75歳以上の大腿骨頸部骨折患者の再歩行獲得率(病前歩行者) | 50% | 64% | 61% | 55% |

産婦人科

1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院産婦人科は、「地域が産み育て看取る」という理念のもと30年以上にわたり、この地域で医療を展開してきました。「家族で迎える出産」を大切に、ご夫婦での「うぶごえ学級」への参加や、分娩室での上のお子様を含めたご家族の立ち会い(立ち会い比率98.4%)、帝王切開時の夫の立ち会い(同95.4%)なども進めてきました。

しかし、2013年の分娩数は541件(表1)とここ10年間では最低数となりました。近年院内での感染予防が強調され、新生児への感染を防ぐため様々な面会制限を行わざるを得ない状況となっており、その影響もあると考えています。また産科における高度医療や未熟児の管理ができないため、母体搬送で高次医療機関へ管理を依頼することもあります(表2)。地域全体での分娩数も減少傾向にあるとはいえ、当院での産科医療が地域のニーズと合わない側面も出てきていると思われるため、今後さらに医療内容を検討し分娩数の増加を図っていきたいと考えています。

妊娠管理の内容としては、高齢妊娠は年々増加しており(図1)、合併症妊娠の比率も上がっています(表1)。妊娠糖尿病(GDM)も2012年11症例に対し2013年19例と増加傾向です。妊娠糖尿病については糖尿病内科と緊密に連携し、自己血糖測定や食事相談、インスリン注射の指導を通して安全な妊娠分娩管理を行うとともに、分娩後の女性の健康管理にも寄与していくことを目指しています。20~30歳代での子宮頸部異形成の増加の影響で、円錐切除後の妊娠管理も増加しています(6件)。身体的、精神的な合併症だけではなく、社会的に分娩後の育児への支援が必要と思われる患者様も多く、保健センターなどと連携を取りながらお産後のつながりも大切にしています。

また、2013年から全国的に臨床研究が始まった新型出生前診断(NIPT)へも2名紹介しています。出生前診断を受けるにあたっては、胎児に対する倫理的な側面や、妊婦の精神的な負担なども考慮しながら話し合いを重ねた上で紹介を行っています(表3)。

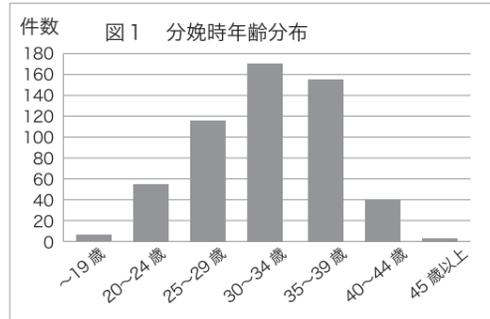
婦人科手術の件数は197件で昨年(2012年172件)より増加しています(表4)。異形成の増加が顕著で、子宮癌検診(4209件)による早期発見に努め、円錐切除術も45件と昨年(2012年23件)のほぼ2倍行っています。妊娠年齢の上昇に伴い、子宮や卵巣の手術を行うにあたり、妊娠希望の有無や時期を慎重に検討する必要がある患者様も増加しており、十分に時間をかけて話し合い、必要に応じ保存的な治療も併用しながら(表5)、納得できる時期と手術方法を選択できるよう援助しています。悪性腫瘍による紹介患者様も42件と昨年(2012年28件)より増加しています(表6)。

この他、感染症やホルモンバランスの乱れ、更年期障害や妊娠しづらいつらいつらといった悩みにも、地域の女性の人生を支える医療機関としてお応えしていきたいと思っています。

2. スタッフ

| | | |
|-----|------|--|
| 部長 | 市川清美 | 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 検診マンモグラフィー 読影認定医師 |
| 副部長 | 榎本明美 | 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 |
| 医長 | 芳賀厚子 | 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医 |
| 医員 | 伊藤浄樹 | 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 |
| 医員 | 布施 彩 | 新生児蘇生法 |

| | |
|----------|----------------------|
| | 「専門」コース |
| 非常勤 竹内育代 | 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医 |
| 非常勤 前川 徹 | |
| 非常勤 上野紀子 | 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医 |
| 非常勤 河原且美 | |
| 非常勤 藪田直樹 | |
| 嘱託 神谷 稔 | 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医 |



| 母体搬送 | 件数 | 紹介先 |
|--------|----|----------------|
| ～22週 | 1 | 川口医療センター |
| 23～27週 | 1 | 自治医科大学医療センター |
| 28～31週 | 1 | 埼玉医科大学国際医療センター |
| 32～34週 | 4 | 北里大学メディカルセンター |
| 35週以上 | 2 | 防衛医科大学校病院 |
| 搬送先 | 9 | 済生会川口総合病院 |

| 出生前診断 | 件数 |
|---------|----|
| 羊水検査 | 10 |
| 超音波 | 13 |
| N I P T | 2 |

| 手術 | 件数 | うち紹介 |
|-------------------|--------|------|
| 入院・手術室施行 (帝王切開除く) | 197 | 73 |
| 子宮筋腫 | 52 | |
| 卵巣腫瘍・含内膜症 (うち腹腔鏡) | 50 (6) | |
| 異所性妊娠 (うち腹腔鏡) | 3 | |
| 頸部異形成 | 45 | |
| その他 | 47 | |

| 薬名 | 3ヵ月以上 |
|-------------------|-------|
| 低用量ピル | 3ヵ月以上 |
| トリキュラー | 87 |
| オーソ777 | 12 |
| ルナベル | 85 |
| 計 | 184 |
| エストラーナ/ナノメイドコンバッチ | 115 |
| ディナゲスト | 61 |
| G n R H | 3ヵ月以上 |
| リュープリン | 151 |
| ナサニール | 115 |

3. 診療実績 (表7 参照)

4. 教育・研修・研究活動

定例カンファレンス (周産期1回/月 術前1回/月 病棟1回/週 病理・細胞診1回/月)

【社会的活動】うぶごえ学級 じいじ・ばあば教室 (祖父母の育児支援) 命の授業 健康と平和への寄稿 (「更年期について」 担当 伊藤浄樹)

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

| 年齢分布 | 2013年 |
|-----------|-------|
| ～19歳 | 5 |
| 20～24歳 | 54 |
| 25～29歳 | 116 |
| 30～34歳 | 169 |
| 35～39歳 | 155 |
| 40～44歳 | 40 |
| 45歳以上 | 2 |
| 計 | 541 |
| 帝王切開 | 121 |
| 合併症妊娠 | |
| 子宮筋腫 | 30 |
| 精神疾患 | 20 |
| 甲状腺 | 6 |
| 高度肥満 | 11 |
| 糖尿病合併妊娠 | 2 |
| P I H | 28 |
| GDM | 19 |
| 円錐切除後頸管縫縮 | 6 |

表6 婦人科悪性腫瘍紹介数

| 悪性腫瘍紹介数 | 件数 |
|----------------|----|
| 悪性腫瘍紹介数 | 42 |
| 紹介先 | |
| 国立がん研究センター中央病院 | 10 |
| がん研究会有明病院 | 5 |
| 都立駒込病院 | 6 |
| 埼玉県立がんセンター | 5 |
| 埼玉医科大学国際医療センター | 2 |
| 自治医科大学医療センター | 3 |
| 川口医療センター | 2 |
| 獨協越谷大学病院 | 2 |
| その他 | 7 |
| 悪性腫瘍 (紹介) | 42 |
| 卵巣がん | 14 |
| 子宮体がん | 12 |
| 子宮頸がん | 11 |
| 子宮内膜腺がん | 3 |
| 骨盤内腫瘍 | 1 |
| 膀胱がん/子宮脱 | 1 |

表7 診療実績

| 傷病名 | 件数 | 紹介あり | 救急搬入 | 手術室における手術 | 在院日数 | 平均年齢 |
|------------------|------|------|------|-----------|------|------|
| 子宮頸・体部の悪性腫瘍 | 51 | 18 | 1 | 47 | 7 | 41 |
| 絨毛性疾患 | 5 | 3 | | | 1.2 | 28.4 |
| 子宮の良性腫瘍 | 56 | 13 | 1 | 53 | 10.6 | 44.7 |
| 卵巣の良性腫瘍 | 42 | 21 | 4 | 42 | 9.5 | 45.8 |
| 子宮内膜症 | 19 | 7 | | 16 | 9.1 | 37.4 |
| 子宮・子宮附属器の炎症性疾患 | 17 | 6 | 4 | 4 | 9.6 | 38.6 |
| 卵巣・卵管・広間膜の非炎症性疾患 | 10 | 3 | | 5 | 6.5 | 28.4 |
| 流産 | 129 | 22 | 1 | 2 | 1.7 | 32.4 |
| 妊娠早期の出血 | 17 | 5 | | 1 | 18.6 | 30.5 |
| 妊娠高血圧症候群関連疾患 | 18 | 6 | | 1 | 7.6 | 31.4 |
| 妊娠合併症等 | 16 | 5 | | 1 | 10.4 | 31.9 |
| 早産、切迫早産 | 83 | 30 | 1 | 10 | 29.3 | 32.1 |
| 胎児及び胎児付属物の異常 | 150 | 61 | 1 | 48 | 8.3 | 31.7 |
| 妊娠中の糖尿病 | 5 | 2 | | 2 | 13.2 | 33.4 |
| 子宮の非炎症性障害 | 12 | 5 | | 6 | 3.1 | 47.2 |
| 分娩の異常 | 262 | 84 | 3 | 59 | 7.8 | 32 |
| その他 | 135 | | | | | |
| 総計 | 1027 | 301 | 16 | 312 | 9.1 | 34.2 |

泌尿器科

1. 概要 特徴、特色

泌尿器科とは腎、膀胱、前立腺、男性生殖器に関する病気を治療する科です。現在の泌尿器科部長(林)が当院で泌尿器科を開設して20年になります。以降、地域の泌尿器科疾患の治療に貢献してきました。20年の累積手術件数は約2500例です。特に近年は高齢化に伴い男性の前立腺肥大症、前立腺癌が多くなっています。そのため当科では前立腺の治療に重点を置いています。目標はさわやかな排尿を目指して治療にあたっています。また専門看護師による骨盤底筋体操、自己導尿の指導、問診も点数化し客観的に症状を把握して、できるかぎり、ガイドラインに沿った治療を心がけています。重症の患者さんは獨協越谷病院または帝京大学病院と連携を取って治療にあたっています。

2. スタッフ

| | |
|----------|---------------------------|
| 部長 林 幹純 | 日本泌尿器科学会認定 専門医、透析療法専門医 |
| 非常勤 斎藤恵介 | 日本泌尿器科学会認定 専門医 |
| 非常勤 八木 宏 | 日本泌尿器科学会認定 専門医 |
| 非常勤 川口真琴 | 日本泌尿器科学会認定 専門医 |
| 非常勤 永榮美香 | 日本泌尿器科学会認定 専門医 |
| 非常勤 北村香介 | 日本泌尿器科学会認定 専門医 |

非常勤 定岡侑子
非常勤 岩端威之

常勤医は1人(泌尿器科専門医、透析専門医)、非常勤7人(専門医5人)で2診体制で治療にあ

たっています。専従看護師は3人です。主に獨協越谷病院、帝京大学病院の医師が非常勤を担当しています。

3. 診療実績

3.1 外来診療

外来は週6日で2診体制で行っています。1日の平均外来患者数は約1530人です。午後は主に予約外来と膀胱鏡、前立腺生検、尿路造影などの検査を行っています。

外来化学療法はホルモン抵抗性前立腺癌に対してドキタキセル、骨転移の症例はゾレドロン酸やデノスマブを投与、膀胱癌は術後の再発予防として外来で膀胱内注入を行っています。

尿路結石に対して体外衝撃波結石破砕術は症例を選んで外来で行っています。

| 外来 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1,479 | 1,436 | 1,493 | 1,448 | 1,639 | 1,404 |
| 計 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| 18,341 | 1,636 | 1,665 | 1,473 | 1,588 | 1,538 | 1,542 |

3.2 病棟診療

病棟は主に手術の患者さんです。その他に尿路上皮癌の化学療法、体外衝撃波結石破砕術、前立腺生検の患者さんを管理しています。

入院実績

| 傷病名 | 件数 | 診断検査 | その他加療 | 手術あり(再掲) | 紹介あり | 在院日数 |
|-------------|-----|------|-------|----------|------|------|
| 腎腫瘍 | 7 | 1 | 6 | 0 | 2 | 14.6 |
| 尿道・性器の良性腫瘍 | 1 | | 1 | 0 | | 9.0 |
| 腎盂・尿管の悪性腫瘍 | 4 | 2 | 2 | 0 | 2 | 10.3 |
| 膀胱腫瘍 | 27 | 1 | 26 | 0 | 11 | 9.0 |
| 前立腺の悪性腫瘍 | 155 | 143 | 12 | 0 | 61 | 3.4 |
| 上部尿路疾患 | 92 | 1 | 91 | 0 | 31 | 2.2 |
| 下部尿路疾患 | 9 | | 9 | 0 | 5 | 6.1 |
| 前立腺肥大症等 | 12 | | 12 | 0 | 4 | 9.8 |
| 男性生殖器疾患 | 14 | | 14 | 0 | 7 | 6.6 |
| 腎臓または尿路の感染症 | 3 | | 3 | 0 | 1 | 6.0 |
| 手術・処置等の合併症 | 1 | | 1 | 0 | 1 | 5.0 |
| 計 | 325 | 148 | 177 | 0 | 125 | 4.3 |

3.3 手術

手術(入院)

| 手術名称 | 件数 |
|--------------------------|----|
| 試験開腹術 | 1 |
| 腎(尿管)悪性腫瘍手術(1歳以上の場合) | 7 |
| 膀胱結石摘出術(経尿道的手術) | 1 |
| 膀胱結石摘出術(膀胱高位切開術) | 2 |
| 経尿道的電気凝固術 | 1 |
| 膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他のもの) | 26 |
| 尿道狭窄内視鏡手術 | 2 |
| 陰嚢水腫手術(その他) | 6 |
| 経尿道的前立腺手術 | 12 |
| 前立腺悪性腫瘍手術 | 8 |
| 経尿道的尿管ステント留置術 | 5 |
| 膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術) | 1 |

手術(外来)

| 手術名称 | 件数 |
|-----------------------|-----|
| シャント造設 | 18 |
| D-Pカテーテル留置 | 1 |
| D-Pカテーテル交換 | 2 |
| 上腕静脈表在化手術 | 1 |
| 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術(一連につき) | 101 |

皮膚科

1. 概要 特徴、特色

協同病院皮膚科には常勤医2名、非常勤医6名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつです。この8名で平日午前中と金曜日午後、月曜日夜間の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかりと診断し治療することを皮膚科の基本方針として診療をしています。

診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法、手術療法や紫外線治療なども施行し効果を上げています。

また外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を格安で取り入れており、患者のQOL向上に有益と考えています。

2. スタッフ

| | | |
|----|------|---------------------|
| 部長 | 伊藤理恵 | 日本皮膚科学会認定指導 専門医 |
| 医長 | 田中純江 | 日本皮膚科学会認定皮膚 科専門医 |

常勤医2名、非常勤医6名(大学からの派遣医2名含む)が勤務しており、皮膚科外来2~3診療体制を取っています。このうち7名が皮膚科学会認定皮膚科専門医です。

当院は皮膚科学会認定の専門医一般研修施設であり、昨年当院で研修を終えた1名が2013年の

専門医試験に合格し皮膚科専門医資格を修得しました。

3. 診療実績

外来診療：平日午前中は2~3人体制で一般外来を、金曜日午後と月曜日夜間には1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2013年の皮膚科のべ外来受診数は2万1505名であり、1日平均外来受診人数は75名でした。受診内容は湿疹、アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性座そう、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

手術：毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。手術件数は年間約305件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。おもな内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

自費診療部門：大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日金曜日の午後に予約にて施行しています。

- (1) アンチエイジングを目的としたレーザー治療(年間約270件)やイオン導入、ケミカルピーリング(年間約120件)、美白剤の処方など
- (2) 男性型脱毛症への内服治療
- (3) 円形脱毛症などに対する局所免疫療法(SADBE治療)
- (4) 陥入爪への超弾性ワイヤーによる矯正治療
- (5) ピアスホール作成などを施行しています。

4. 教育、研修

通常は水曜日の外来診療後にカンファレンスを

行っています。

当院は皮膚科専門医の一般研修施設ですが、希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

眼科

1. スタッフ

部長：堀 邦子

非常勤医師：竹井浩明、寺内岳、河井明佳、
曹圭徹、溝田淳、松本惣一セルソ、
篠田啓、根本裕次、近藤尚明、
松本浩一、渡邊恵美子、坪井隆政

視能訓練士：会澤慎子、豊原結

看護師：川津美貴

外来クラーク：赤池理代子、相良恵子、勝村美奈穂、
小野崎浩美

2. 診療実績

2.1 外来診療

2011 年 4 月より、新患受付を含む一般外来診療を再開しております。新患、予約外患者の受付は、火曜日から土曜日の午前 8：00 - 10：00 までです。月曜終日と午後は、完全予約制にて手術または特殊検査を含む外来診療を行っております。現在、常勤医 1 人体制ですが、週 2 回の外来診療を、帝京大学派遣の非常勤医師が担当しております。

診療の内容は、一般眼科としての幅広い眼科全般の診療（白内障・緑内障・糖尿病性網膜症・神経眼科）はもちろん、京都府立医大にて学位を賜る過程に勉強した経験を生かして角膜疾患を得意としております。地域の病院として、疾患についての知識が少ない患者様にも、前眼部撮影装置、OCT 等の結果を画像で見ながら、疾患のイメージが掴めるよう説明し、ご本人が疾患を理解した上で、積極的に治療に取り組んでもらうことを心掛けています。

総合病院の眼科である利点を生かして、眼症状を初発症状として、耳鼻科領域、脳外科領域の疾患が疑われる場合には、CT、MRI 等を速やかに撮像し、適格な治療に回せるよう努めています。

2.2 手術

月、木曜日の午後に、白内障手術（229 件 2013 年実績）を中心に行っております。また、不定期ですが、翼状片（2 件 2013 年実績）、眼瞼下垂（1 件 2013 年実績）、内反症といった外眼部小手術も行っております。規模的制約があるため、硝子体手術などより高度な設備が必要な患者様は、大学病院にご案内しています。

白内障手術に関しては、PEA 装置としてインフィニティを導入しており、安全で、負担の少ない手術を心がけております。眼内レンズは、より高いQOVが得られるよう非球面レンズ、乱視矯正レンズを積極的に用いています。多焦点レンズの適応となる若年の患者様には、その選択肢もあることを伝えて、希望があれば専門施設をご案内しています。総合病院の眼科として、他科にかかりつけで何らかの全身合併症のある患者様の手術にも可及的に対応しております。また、近隣の開業の先生方からのご紹介患者様も積極的に受け入れています。ご高齢の方、合併症をお持ちの方には、入院での手術をお勧めすることが多いですが、患者様の背景によっては、ご希望に応じて日帰り手術も行っているほか、柔軟かつ質の高い対応を目指しています。

耳鼻咽喉科

1. スタッフ

科長 滋賀秀壮

2. 外来

外来（診療）を中心に診療を行っています。約 10 年前より 2 診体制になりました。

鼻茸切除術、局所麻酔の口腔内小腫瘍摘出、暴れる子どもの外耳道異物の全麻下摘出など、入院を要しないものに限られます。それ以外は大学病院、近隣の病院に紹介いたします。

3. 2013 年実績

1 ヶ月あたりの平均患者数 1,025 名

1 日あたりの平均患者数 約 40 名

4. 外来診療内容の概要

耳

- ・慢性・急性中耳炎、滲出性中耳炎 について
- ・突発性難聴、耳管狭窄症 について
- ・めまい について
- ・顔面神経麻痺 について

鼻

- ・慢性・急性副鼻腔炎（蓄膿症） について
- ・アレルギー性鼻炎、花粉症 について
- ・嗅覚障害 について

※レーザー治療やステロイド治療は行っておりません。

- ・咽頭扁桃、アデノイド について
- ・いびき、睡眠時無呼吸（自宅検査機器あり） について
- ・口腔咽頭異物 について

※扁桃腺摘出の手術は紹介になるのでご相談致します。

頭頸部

・唾液腺結石 について

・頸部腫瘍 について

※顎関節症は紹介になります。

※なお、2014年5月現在、常勤医師は勤務しておりません。東京大学医学部付属病院の耳鼻科より支援を頂いて、輪番体制で外来診療を実施しております。

精神科

1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院に精神科が開設されたのは、1986年です。精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され約20年が経過しました。現在は精神科常勤医師2名、非常勤医師1名の体制となっています。

日本の精神医療は、歴史的に単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきましたが、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになってきています。その結果、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べ精神科医療は患者さんにとって大変利用しやすいものとなっています。その一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、むしろ最近では総合病院で働く精神科常勤医師数は先細りの傾向にあり、埼玉県南部地域でも常勤医師が複数いる病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神科床を持たない精神科として、以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず、第一に当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方(概ね高校生以上)まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、認知症、うつ病、不安障害、慢性期の統合失調症、アルコール依存症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近では出産子育ての過程で精神的に

不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

上記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

2. スタッフ

部長 雪田 慎二 日本精神神経学会認定
専門医(指導医)
日本総合病院精神医学会
特定指導医
精神保健指定医

副医長 荻野マリエ
非常勤 堀内 慶子 日本精神神経学会認定
専門医
精神保健指定医

3. 診療実績

外来診療：月～金で再来1～2診体制。新患外来は別枠で実施。新患は年間約350例。

精神科デイケア：月・水・金の週3回実施。

リエゾン活動：身体科入院患者への精神科医療の提供。緩和ケアチーム回診。

緩和ケア病棟：病棟スタッフとして診療。

被ばく相談外来：週1回。放射線被ばくによる健康問題の相談援助。

4. 教育・研修・研究活動

- ・精神科多職種カンファレンス (週1回)
- ・精神科抄読会 (週1回)
- ・精神科新患カンファレンス (適宜)
- ・地域の社会復帰施設との合同カンファレンス (月1回)

5. その他

地域での講演活動(認知症・うつ病・統合失調症など精神障害に関する啓発的講演、被爆者医療・放射線被ばくによる健康影響等についての講演)

病理診断科

1. 概要、特徴、特色

常勤医1名と非常勤医2名の病理医が診断を行っています。難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断をしております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた4名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

2. スタッフ

病理部長 石津英喜 日本病理学会専門医
日本臨床細胞学会専門医
産婦人科病棟医長
芳賀厚子 日本臨床細胞学会専門医
非常勤 北野元生 日本病理学会口腔病理専門医
非常勤 江石義信 日本病理学会専門医

3. 診療実績

検体数の推移

| | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 |
|------|-------|-------|-------|
| 解剖数 | 18 | 15 | 13 |
| 生検数 | 6399 | 7257 | 7097 |
| 細胞診数 | 7974 | 7947 | 7859 |
| | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 |
| 解剖数 | 16 | 14 | 8 |
| 生検数 | 6948 | 6989 | 7138 |
| 細胞診数 | 7460 | 6937 | 6982 |

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育・研修

認定施設：日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設

病理科内での症例検討会：週1回

CPCは医局主催で年5回程度行われています。

4.2 研究

東京医科歯科大学と協同し消化管間葉系腫瘍(GIST)の研究。

5. その他

当院の特徴として病理診断管理加算を算定するために、病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も発展させ続けることのできる病理医の養成に努めています。

糖尿病内科

1. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標としています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にもつとめています。

2. スタッフ

糖尿病専門外来、糖尿病初診外来、はじめ外来、フットケア外来、外来栄養指導、糖尿病透析予防指導外来を行っています。

科長 村上 哲雄 日本糖尿病学会研修指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本糖尿病学会研修指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科指導医
日本内科学会認定内科医
医員 島村 裕子 日本内科学会認定内科医
医員 関口由希公 日本糖尿病学会専門医
医員 中島 尚子 日本内科学会認定内科医
非常勤 清水 緑 日本糖尿病学会研修指導医
日本糖尿病学会専門医

・糖尿病学会認定研修指導医3名。糖尿病学会専門医4名。

・院内CDEJ (Certified Diabetes Educator of Japan) 9名

3. 診療実績

3.1 外来診療 (患者数2013年10944人)

3.1.1: 糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。

3.1.2: 糖尿病教育も含めての、“はじめくん外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめくん外来ではカンパセーションマップ(会話のための地図)を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。

3.1.3: インスリン導入は外来で行うことが多く、新規外来インスリン導入数は2013年51名でした。糖尿病外来でのインスリン使用者数は月平均400名でした。またインスリン注射の手技の再チェックを必要時行っています。

3.1.4: GLP-1注射薬(リクシミア)も2名導入しています。

3.1.5: CSII(持続皮下インスリン注入療法)も行っています。

3.1.6: CGMS(持続血糖モニタリングシステム)も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院外来で施行しており、新規導入は17名でした。

3.1.7: フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見につとめています。フットケア外来新規登録者数は27名でした。

3.1.8: 糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的に行い、2013年中では119名指導しました。

3.1.9: 糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行って啓発を行って

ます。

3.2 病棟診療

3.2.1：糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、38名がパスに則りコントロールを行いました。

3.2.2：マゴットセラピー提携病院として必要時治療を行っています。

3.2.3：局所陰圧閉鎖療法も必要時行っています。

4. 教育・研修・研究活動

4.1 教育

4.1.1：毎週1回糖尿病カンファレンスを医師、コメディカルスタッフで行っており、症例数は2013年64名であり、患者の日常生活環境、問題点などについて検討し、指導のポイントなどについて討論を行い、患者さんのQOL向上に努めています。

4.1.2：毎月1回糖尿病事務局会議を行い、新しい情報の検討、診療業務の改善、向上につとめています。

4.2 研究

4.2.1：糖尿病合併症進展因子についての検討

4.2.2：糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

4.3 その他

4.3.1：学会活動

日本糖尿病学会年次学術集会、日本糖尿病学会関東甲信越地方会、糖尿病学の進歩

4.3.2：研究会活動

川口インクレチン研究会、川口カンファレンス